

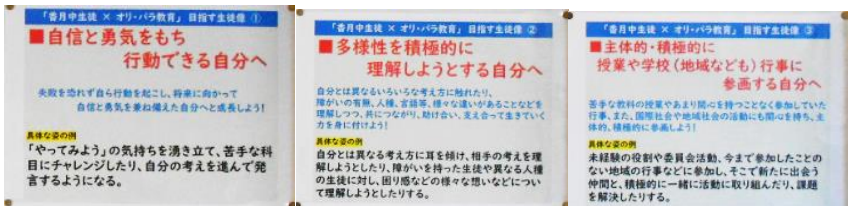
令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 北九州市 】

学校名【 香月中学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・V(複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	北九州市立香月中学校 3学年103名 2学年113名 1学年109名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名 (保健体育科 学級活動) ② 行事名 (クラスマッチ) ③ その他 (読書活動) (2) 地域における活動 ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	・オリンピック・パラリンピック教育を通じて、以下の3つの生徒の育成を目指す。 「自信と勇気を持ち、行動できる生徒の育成」 「多様性を積極的に理解する生徒の育成」 「主体的・積極的に授業や学校行事、地域行事に参加する生徒の育成」
5 取組内容	① 目標を共有する取組 職員・生徒・保護者・地域との目標の共有を行うために以下の取組を行った。 ・目標を共有するための紙面の配布及び掲示板の設置 ・香月中学校HPへの掲載による周知 ・まちづくり協議会等の地域の会議等の場での周知 

②オリンピック・パラリンピックについて、知る・学ぶための取組

図書室で知る・学ぶ ことができるように、

・学級回覧用の書籍の設置

※導入として、読みやすい漫画から、専門書までを取りそろえ回覧（コースも内容を分け3種類設定）



・「オリンピック・パラリンピック」関連コーナーの設置

※オリンピック・パラリンピックを「歴史」「競技種目やルール」「食事」など、様々な視点で書籍を分けることにより、色々な切り口から興味関心を高めることができるように工夫。



・興味を広げるための取組

※掲示板でのクイズを交えた「ピクトグラム」の紹介、オリンピック・パラリンピック関連のHPの紹介など



・パラリンピックを身近に感じるための掲示物の設置

※パラリンピック競技の特徴をあらわしたイラストを活用、ピクトグラムとともに掲載



	③ 意欲を引き出すためにオリンピックと関連付けて、体カテストを実施 ※オリンピックと香月中の名前をコラボさせて、 「かつリンピック」という名前で実施、記録の掲示も合わせて「かつリンピック」の名前で掲示。 ④ 保健体育科において、「オリンピック・パラリンピック」に関する内容の学習を行い、定期考査にも出題するなど、興味・関心を高める取組の実施 ⑤ 保健体育科の授業、及び部活動等において、「パラリンピック競技」ボッチャの体験やゆるスポーツとして取り組みやすい「ドッチビー」の体験やウォームアップ運動に導入 
6 主な成果	・オリパラ教育を通して、「知る」「学ぶ」活動を通して、スポーツへの関心 食事に対する考え方が変わり食生活への関心 障がい者も楽しむことができるスポーツという視点 競技種目やルールへの関心とルールを大切にする気持ちなどの高まりが感じられた。 ・クラスマッチや授業等での体験を通して、体カテストへの意欲 クラスマッチでの苦手な生徒への声かけや練習時の支援 みんなでスポーツを楽しむことができるような支援など意識して取り組む様子が見られるようになった。
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	・取組が単発で終わらず、持続しやすいものとなるような取組となるように工夫した。 ■書籍の充実 → 図書室でのコーナーの設置や学級回覧用の設置 (年間を通して取組を行いやすい)

	■ボッチャ・ドッチビーの活用 → 授業や部活動でのウォームアップ等での活用 ■掲示物の活用 → スポーツに関連する掲示物が学校には複数届くためオリパラ教育と関連させて掲示、年間通してスポーツに関わる掲示を行えるようにしている。
8主な課題等	・オリンピック・パラリンピックに関する話題は、4年に1度であり、今回の東京オリンピックの話題を継続して使用することは難しい、そのため、世界大会などに関連させて、継続的に掲示や取組ができるようにする必要がある。
9来年度以降の実施予定	・「8」にも記載しているが、オリンピック・パラリンピックに関する話題は、4年に1度であり、今回の東京オリンピックの話題を継続して使用することは難しい、そのため、世界大会などに関連させて、継続的に取り組むことができるように 図書活動との連携 保健体育科との連携 などを軸に、取り組みやすく、継続しやすいものを実施していきたいと考えている。